20 章 その他の情報

MacinCashを運用していく中で役に立ついくつかの情報を説明します。

20.1　パスワード

MacinCashを起動するとまずパスワードを入力する画面になります。MacinCashではこのパスワードシステムによって販売員が経営レベルの内容を見ることができないようにしています。

20.1.1　アクセスレベルと出荷時の設定

MacinCashには5つのアクセスレベルがあります。ここではそれぞれのアクセスレベルの内容と出荷時のパスワードを示します。

「Designer」
MacinCashを開発するためのアクセスレベルで、通常の使用状況ではこのレベルでデータベースにアクセスすることはありません。

「Administrator」
通常の運用の中では使用することはありません。4D Toolsを使って作業するときや、その他データメンテナンス時だけこのアクセスレベルを使います。4D Toolsに関しては「19.6　4D Tools」を参照して下さい。出荷時のパスワードは「1993」です。

「経営者」、「責任者」
現バージョンでは「経営者」と「責任者」のアクセスレベルは全く同じです。ユーザーに開放されているすべての部分にアクセスできます。出荷時のパスワードは「1993」です。

「販売員」
支払に関しては操作できず、会計報告や売上一覧などの集計画面を見ることができません。また「ｶｽﾀﾑ処理」の「時計設定」を使えません。出荷時にはパスワードは設定されていません。

「販売員2」
メニューが「日次」メニューに制限されます。「日次」メニューの内容は「販売員」と同様です。また、レジ画面での一部の機能も制限されます。出荷時にはパスワードは設定されていません。

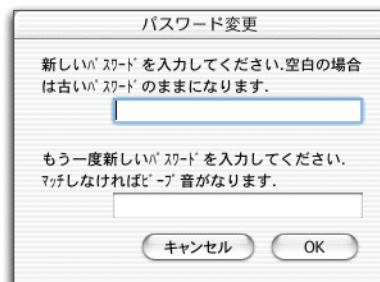
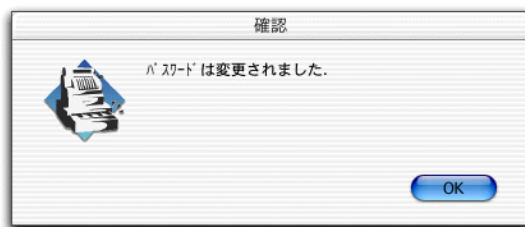
20.1.2　パスワードの変更

出荷時に登録されているパスワードのままですと機密上問題がありますので、「経営者」と「責任者」のパスワードを変更しておく事をお勧めします。

タイトル画面が表示されている状態で「ファイル」メニューから「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ変更」を選択します。

パスワード入力ダイアログが現われますので、パスワードを変更するユーザー名をクリックします。

現在設定されているパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

パスワード変更ダイアログが現われますので指示にしたがって新しいパスワードを入力します。

パスワードの変更が完了するとアラートが出ます。

20.2　MacinCashに付属しているバーコードフォント

MacinCashにはバーコードフォントが付属しており、これを使ってバーコードなどを印刷します。付属しているフォントは以下の4つです。

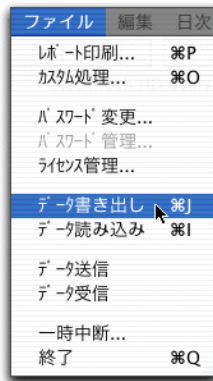
・Code Three Nine (ファイル名はCode39.TT)
・POSTBC
・TBJAN
・TBOCR-B

これらのフォントのインストーラはMacinCash本体のインストーラとは別になっていますので、忘れずにインストールしてください。

20.3　登録したデータを他のアプリケーションで活用する

MacinCashのデータをTEXT形式やSYLK形式でデータを書き出して他のアプリケーションで使うことができます。

20.3.1　「データ書き出し」でデータを書き出す

伝票やマスタの一覧表示の状態で、あらかじめ書き出したいレコードを表示しておき、「ファイル」メニューから「データ書き出し」を選択します。

次にどのような形式でデータを書き出すかを設定します。使用するアプリケーションにあわせた適切な形式を選択して「書き出し」をクリックしてください。

MacinCashで読込可能な形式
TEXT形式でフィールド句切りに「tab」（ASCIIコード9）、レコード句切りに「return」（ASCIIコード13）を使っています。MacinCash以外にも通常のワープロや表計算などで使用できます。ただし、会社情報、レジマスタ、クレジット会社マスタは特殊なフォーマットになっており、他のアプリケーションで開くことはできません。

TEXT形式
ワープロや表計算などで使用できます。任意のフィールド句切りとレコード句切りを設定することができるので「MacinCashで読込可能な形式」と違うフィールド句切りやレコード句切りを使う場合に指定します。

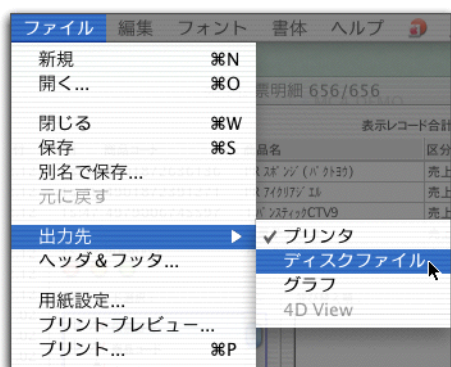
SYLK形式
表計算ソフトウェアで使用します。

DIF形式
VisiCalcなどの表計算ソフトウェアで使用します。

書き出されたデータがどのような内容になっているかは巻末の「付録B　書き出しファイルフォーマット一覧」を参照して下さい。

「ｶｽﾀﾑ処理...」の中に「データ書き出し」が用意されていないテーブルを書き出す場合は次の「20.3.2　「ﾚﾎﾟｰﾄ印刷....」の「ｸｲｯｸﾚﾎﾟｰﾄ」でデータを書き出す」を参照して下さい。

20.3.2　「レポート印刷...」の「クイックレポート」でデータを書き出す

「4.12　印刷」で説明したように「ﾚﾎﾟｰﾄ印刷...」の「ｸｲｯｸﾚﾎﾟｰﾄ」で印刷するときに「出力設定」で「ディスクファイル」を選ぶとテキストファイルとしてデータを書き出すことができます。

「ｸｲｯｸﾚﾎﾟｰﾄ」の詳細は「4.12.3　ユーザーレポート」を参照して下さい。書き出されるテキスト形式のフィールド句切りとレコード句切りはそれぞれ「tab」（ASCIIコード9）と「return」（ASCIIコード13）が使われます。

20.3.3　書き出されたデータを他のアプリケーションで読み込む

書き出されたデータを読み込む方法はそれぞれのアプリケーションによって違いますが、ワープロや表計算ソフトならばほとんどの場合「ファイル」メニューの「開く」でそのまま読み込むことができるはずです。

詳細はそれぞれのアプリケーションの取扱説明書を参照して下さい。

NOTE
表計算ソフト(Microsoft Excelなど)で開く場合には、そのまま開いてしまうと、たとえば「0001」といった内容は数値と判断されて「1」となってしまいます。これを防ぐために、Microsoft Excelの場合では、読み込み時に表示されるファイルウィザードですべての欄を文字列として読み込んでください。開いた後に数値として扱いたい欄の書式を変更します。

20.4　データ書き出し／読み込みについて

MacinCashではホストとレジの間でデータのやりとりをするためと、他のアプリケーションとデータのやりとりをするために、データ書き出し／読み込みを行います。すでにいくつかの章で簡単に説明しています。ここではデータ書き出し／読み込みについて詳しく説明します。

20.4.1　データ書き出し／読み込みの概要

MacinCashはデータベースそのままの形で他のデータベースやアプリケーションとデータのやりとりする事はできません。必ずテキストファイルの形にしてやりとりをします。下図の例はお客様マスタをテキストファイルとして書き出したものです。

MacinCashではこのようなファイルにしてデータを書き出します。このファイルのアイコンは4th Dimensionで作られたことを示していますがデータの中身はテキストエディタなどで作られる通常のテキストデータです（ただし一部のデータは特殊なフォーマットになっています）。そのためワープロや表計算といった他のアプリケーションでも簡単にデータを見ることができます。

通常のデータ書き出しはタイトル画面の「ｶｽﾀﾑ処理...」の「データ書き出し」、伝票やマスタの一覧表の「ｶｽﾀﾑ処理...」の「データ書き出し」およびレジの閉店処理で行います。特殊なものは別に書き出し方法が用意されています。特別に指定する場合を除いて、データは決まった名前で「書出ファイル」フォルダに書き出されます。データを読み込ませるときは「読込ファイル」フォルダにコピーしておきます。

「ﾚﾎﾟｰﾄ印刷...」の「ｸｲｯｸﾚﾎﾟｰﾄ」で任意のフィールドを選んで書き出すこともできますが、この方法ですと他のアプリケーションで使うには問題ありませんが、レジ間のデータのやりとりには使えません。任意のフィールドの書き出しについては「4.12.　ユーザーレポート」を参照して下さい。

MacinCashの起動時に「読込ファイル」フォルダにファイルがあれば自動的に読み込みを行ないます。起動した後はタイトル画面のカスタム処理の「データ読み込み」で読み込みを行います。データの読み込みが完了すると「読込ファイル」フォルダ内のテキストファイルは削除されます。

NOTE
店舗間のデータのやりとりをメール機能を使っている場合には、これらの処理は自動的に行われます。

20.4.2　テキストファイルの内容

書き出されたテキストファイルの中身は、レコードの内容をすべて文字にして順番に並べたものです。「この会社の情報」、「レジマスタ」、「クレジット会社マスタ」以外はフィールド句切りに「tab」（ASCIIコード9）、レコード句切りに「return」（ASCIIコード13）を使っています。内容とその順番は「付録B　書き出しファイルフォーマット一覧」を参照して下さい。下図は書き出した「お客様マスタ」をテキストエディットで開いてみた例です。

文字タイプのデータは、MacinCashで表示されていたのとほぼ同様の形式で書き出されます。

数字タイプのデータは、書式制御のはずれた生の数値が書き出されます。

日付タイプのデータは「94.03.30」のように年月日を「.」（ピリオド）で句切る形式で書き出されます。

ブールタイプのデータは「True」もしくは「False」の文字で書き出されます。「True」とは「真」、「False」とは「偽」の意味です。ブールタイプのデータはMacinCashの画面でラジオボタンもしくはチェックボックスで表現されているものです。下図はお客様マスタにあるブールタイプのフィールドの例で、どちらも「True」の状態を示しています。

「この会社の情報」、「レジマスタ」、「クレジット会社マスタ」は特殊なフォーマットになっており、ワープロや表計算といった他のアプリケーションで見ることはできません。

書き出されたファイル名を変えてしまうとMacinCashに読み込ませることができなくなります。
伝票のファイル名には「売上伝票.1」のように「.」（ピリオド）+レジコードが付きます。

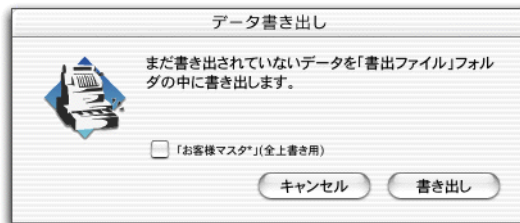
20.4.3　「書出ファイル」フォルダ／「読込ファイル」フォルダ

データは全て「書出ファイル」フォルダに書き出され、「読込ファイル」フォルダから読み込まれます。これらの二つのフォルダは必ずMacinCashと同じフォルダにおいてある必要があります。同じフォ

ルダに無い場合や名前が違っている場合にはエラーになります。

20.4.4　データ書き出し

タイトル画面のデータ書き出し

タイトル画面の「データ書き出し」を実行すると、Disk出力済みフラグがはずれている伝票やマスタを全て「書出ファイル」フォルダに書き出します。「商品大分類」と「商品小分類」については一つでもDisk出力済みフラグがはずれているレコードがあるとすべてのレコードを書き出します。

書き出しが行われるとデータベースのレコードのDisk出力済みフラグがセットされます。
書き出されたテキストファイルのDisk出力済みフラグは全てはずれたままです。

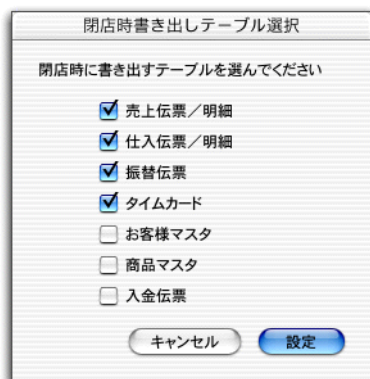
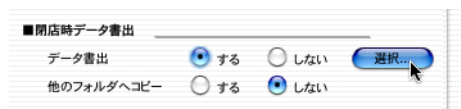
伝票やマスタの一覧表でのデータ書き出し

一覧表画面の「データ書き出し」を実行すると、表示されているレコードを全て「書出ファイル」フォルダに書き出します。ここではDisk出力済みフラグと無関係に書き出します。「商品大分類」と「商品小分類」については表示されているレコードと無関係にすべてのレコードを書き出します。

書き出しが行われるとデータベースのレコードのDisk出力済みフラグがセットされます。

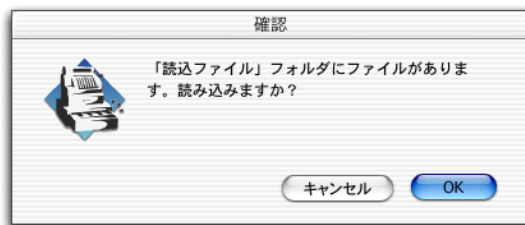
閉店処理でのデータ書き出し

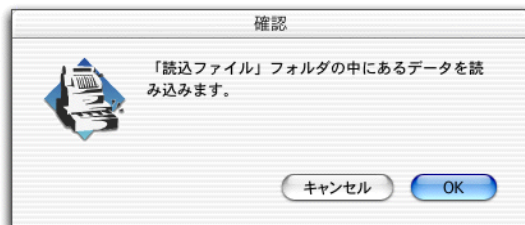
「その他」メニューの「レジ」の環境設定のページで「閉店時データ書出」を「する」に設定してあれば、レジの閉店処理でDisk出力済みフラグがはずれている「売上伝票」、「売上伝票明細」などを

「書出ファイル」フォルダに書き出します。どの伝票/マスタを書き出すかはあらかじめ選択しておきます。

書き出しが行われるとデータベースのレコードのDisk出力済みフラグがセットされます。

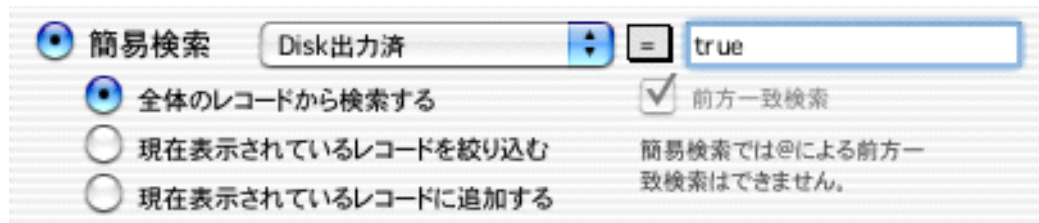
20.4.5　データ読み込み

起動時のデータ読み込み

MacinCashの起動時、「読込ファイル」フォルダにテキストファイルがあればそれらを読み込みます。

タイトル画面のデータ読み込み

タイトル画面の「ファイル」メニューの「ﾃﾞｰﾀ読み込み」を実行します。

20.4.6　Disk出力済みフラグ

「ｶｽﾀﾑ処理...」の「データ書き出し」でデータを書き出せる伝票やマスタにはDisk出力済みフラグのフィールドがあります。このフィールドはMacinCashが内部的に使い、通常の画面ではこのフィール

ドを見ることはできませんが、検索キーなどには使うことができます。すでに書き出されたデータを検索するならば「Disk出力済=true」とします。逆にまだ書き出されていないデータを検索するならば「Disk出力済=false」とします。

MacinCashは各レコードがすでに書き出されているのかまだ書き出されていないのかの判断をDisk出力済みフラグで行います。タイトル画面での書き出しや閉店処理での書き出しではDisk出力済みフラグがはずれているレコードだけを書き出します。一覧表画面での書き出しではDisk出力済みフラグは無視され、表示されているレコードをすべて書き出します。

データが書き出されると各レコードのDisk出力済みフラグがセットされます。

20.5　ファンクションボタン用バーコード

レジ画面の様々な機能を割り当ててあるファンクションボタンは、キーボードのキーを押したり、画面上のボタンをクリックしたりすることで動作しますが、あらかじめ印刷しておいたファンクションボタン用バーコードをスキャンすることでも動作させることができます。ここではファンクションボタン用バーコードの詳細と有効な使い方を説明します。

20.5.1　ファンクションボタン用バーコードの内容

ファンクションボタン用バーコードは次のような内容になっています。

%%01

二つの「*」（アスタリスク）はCODE39のバーコードの始まりと終わりを示す文字で、バーコードをスキャンしたときには文字として入力されません。
「%%」はこのコードがファンクションボタン用バーコードであることを示す識別コードです。出荷時の設定では「%%」ですが「この会社の情報」で変更することができます。
「01」はどのファンクションボタンかを示すコードです。数値は下図のようにボタンの位置に対応していますので、上の例の場合は標準ボタンの左上隅のボタンを押したことになります。

ファンクションボタン用バーコードでは拡張ボタンを使うために拡張ボタンを表示する必要はありません。レジ画面で直接拡張ボタン用のコードを入力すれば動作します。

また、正確にはファンクションボタンではないのですが、タイムカード用のコードも用意されています。

80　：　×××$0%%80（退社用）と×××$1%%80（出社用）の２種類の使い方があります。×××には従業員コードが入ります。このコードを入力するだけでタイムカードの登録が行われます。
91　：　出社
92　：　退社
93　：　登録
94　：　キャンセル

91〜94のコードはタイムカード入力ダイアログ（下図）で使います。80はレジ画面でもタイムカード入力ダイアログでも使えます。

このダイアログが表示されている状態でこれらのコードを入力すると、それぞれの対応するボタンを押したのと同じ動作をします。

20.5.2　金額や割引率を組み合わせる

データ入力欄に金額や割引率などを入力してボタンを押すタイプのファンクションボタンの場合は、金額や割引率などと組み合わせて一つのバーコードにすることができます。下図の例は100円値引きするためのバーコードです（単品値引きが「09」に割り当ててある場合です）。

20.5.3　ファンクションボタン用バーコードの有効な使い方

テンキーの代わりに使う

通常のレジであれば頻繁に使われるファンクションボタンは4つ以下なので、テンキーの上の一列だけが単独で動作し、他のボタンはコマンドキーと組み合わせる設定でも問題ありません。しかし、頻繁に使うボタンが五つ以上ある場合やPower Bookのようにそもそもテンキーが無いような場合には、操作が多少面倒になります。この様な場合はファンクションキーを利用する事もできますが、すでにバーコードリーダーを使っているならば、必要なファンクションボタン用バーコードを印刷してレジの横においておくだけで、マウスに持ちかえることもなく片手だけで操作できるようになります。

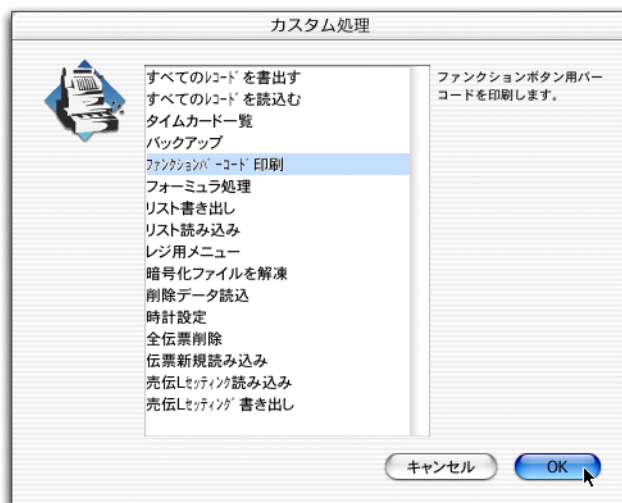
金額や割引率を組み合わせて使う

「20.5.2」で説明したように、金額や割引率などと組み合わせる事によって決まった動作を一回のスキャンで済ますことができます。これは次のような場合に便利です。

1）一定金額、一定率の値引き、割り引き
2）特定の金額の金券の使用
3）価格入り分類商品コード（例えば100円のジュースは「100.57%%01」のようになります）
4）タイムカードの登録

4）のタイムカードの登録についての詳細は、「15.1.2　タイムカード用バーコード」を参照してください。

20.5.4　ファンクションボタン用バーコード一覧の印刷

タイトル画面のカスタム処理でファンクションボタン用バーコードの一覧表を印刷する事ができます。

実行すると下図のようなバーコード一覧表が3ページ分印刷されます。